

第 110 回 日商簿記検定試験

1 級商業簿記・会計学 講評

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
商業簿記	連結会計(税効果あり)的中	損益計算書の作成 (退職給付含む)的中	残高試算表
会 計 学	第 1 問 理論問題 (語群選択) 第 2 問 割賦販売 第 3 問 金融商品の評価	第 1 問 理論問題 (正誤) 第 2 問 棚卸資産の評価的中 第 3 問 税効果会計	第 1 問 適語補充的中 第 2 問 ソフトウェア会計 第 3 問 キャッシュ・フロー会計

【商業簿記】

次点としていた本支店会計の、帳簿記入に関する問題でした。そして、決算整理後に未達取引を処理するという手順が想定されているのが特徴です。したがって、未達取引の決算整理への影響を考慮する必要がありました。

またこの問題は、本店の損益を中心に問われており、本店勘定と支店勘定の相殺といった処理が必要ないので、受験された方は「資料が足りないのではないか」という思いにかられたかも知れません。

内容的には、内部利益の控除、売上原価の計算、商品評価損といった従来の論点に加え、新株予約権付社債、為替予約といった、本支店会計では珍しい論点もあり、複合的な問題であったといえるでしょう。

ただ、部分点はしっかりと稼げる問題だとは思いますので、平均で 12 点、合格される方の平均で 18 点くらいになるのではないかと思います。

【会計学】

第 1 問：適語補充であったので、基本的な内容であったと思います。他の形式に比べやさしかったのではないかと思います。

第 2 問：売価還元法、退職給付会計、配当可能限度額の計算と、小問形式で問われたのが今回の特徴です。会計上、処理しなければならない場面が増加する昨今、1 級が目指す「経理責任者」の持つべき知識もまた多様になってきており、その中で多くの論点を問える形への出題傾向の変化です。今後こういう出題があるものと思います。

売価還元法や退職給付会計は予想通りでしたが、配当可能限度額の出題には驚きました。資本金 1 円の企業が認められるようになる昨今、この計算にどれだけの意味が残るのか疑問だからです。内容的には、どれも平易なものでした。

第 3 問：連結会計上の税効果会計の出題は予想通りだったのですが、子会社が 2 つであったり、株式の売却が含まれていたり、しっかりと仕訳ができないと難しかったかと思います。

ただ、第 1 年度末のところまでしっかりと答えられれば、今回の試験で合格ラインに到達するには十分でしょう。

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
工業簿記	直接原価計算と全部原価計算	標準原価計算 的中！	部門別個別原価計算 的中！
原価計算	意思決定会計 (受注の可否)	設備投資 的中！	予算実績差異分析

<工業簿記>

工業簿記は小問で 2 問出題され、部門別計算と標準原価計算が出題されました。これは、第 2 予想と第 3 予想であげていましたが驚くほど基本的な問題でした。ただし、部門別計算の出題の形式が「穴埋め」だったので焦った方もいたと思われます。また、固定予算と変動予算の比較というテーマも盛り込まれていたため、固定予算というところに気が付いたかどうかで時間の使い方が変わってきます。

部門別計算は、補助部門費の配賦について、単一基準実際配賦→ 予定配賦→ 複数基準予定配賦というテキストの流れにそった聞き方になっていました。素直に流れに従うことができれば満点も可能でした。

次の標準原価計算は、前回から連続ですが、配合歩留差異の分析です。きわめて基本的な問題でした。初めて見るテーマでない限りは、落ち着いて解けば完答できたのではないのでしょうか？分量を調整するための問題でした。

<原価計算>

原価計算は設備投資の意思決定が出題されました。皆さんが苦手とする、文章で資料を与えています。ポイントは、旧設備と新設備を取り替えるかどうかではなく「新設備を追加的に取得するかどうか？」という意思決定を行うということです。ということは、旧設備についてのデータは基本的には「埋没」になってしまいます。最後の問 6 に少しだけ使いますが…。

また、設備の除却時に除却コストがかかっていますが、これがキャッシュフローに与える影響には注意が必要です。小問が連続しているため、各問ごとに慎重さが必要でした。設備投資としては比較的やさしめの問題です。